

# ひかりのこ

6月園便り

聖ミエル幼稚園

2019年5月21日

## 月主題：関わり合う

### 『保育と安全』

大津市、市原市の保育活動中の園外での交通事故。小さな命が奪われたり、保育士の先生がけがをしたりする悲しい出来事でした。保育関係者にとっても、保育園や幼稚園などにお子さんを通わせている保護者にとっても、そしてハンドルを握る全てのドライバーにとっても改めて自動車の怖さを思い知らされることとなりました。

子どもたちをのびのびと遊ばせたい、体力をつけさせたい、植物や動物などの自然の中で様々な経験をさせたい、という保育方針のもとに、園外保育を行う園は多いことと思います。聖ミカエル幼稚園も園バスに乗って、年長さんはジャガイモづくり、年中さんはいちご狩り、年少さんも2学期には園外保育が予定されています。高速道路や一般道路で遠くに行くこともあります。また、美香保公園や近隣の公園に歩いて遊びに行くこともあります。

私たち保育者は安全のために最善を尽くし、いつも確認を取り合っています。でも、事故が全く起きない、という保証はありません。もし事故が起きた時のことも想定し、どう動くかを考えなくてはなりません。これからも道路交通法に乗っ取り、安全に留意して保育を行っていきたいと考えています。

昨年度は東区も大きな地震に見舞われました。幸いなことに夜中で、家族と一緒にいられる時間でしたが、開園時間中にこのような災害が起こることも十分考えられます。災害や火災に対しても避難訓練を繰り返し、全ての子どもたちの命を守っていきたいと思います。

5月15日の避難訓練では、年少の子どもたちも泣きながら、頑張っ自分の足で歩いて避難してくれました。練習を繰り返すことの大切さも感じました。

「備えあれば患いなし」ということわざがあります。この「備え」もこれで万全、ということはありません。何度も何度も考えて、話し合っ、確認を取り合っ、いかなくは大きな「穴」が開いてしまいます。

送迎をされる保護者の皆さんも、もう一度幼稚園までの道のりの安全を確認し、子どもたちを守っていただきたいと思っ。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「名 前」

普段、あまり意識することはありませんが、私たち一人ひとりに名前があるということは、とても素晴らしいことです。それは私たちが誰かに愛されて生まれてきたことのしるしだからです。

私が小学校2、3年の頃、学校に幼稚園の担任の先生が園児を連れてやってきました。久しぶりに会う先生に、私はドキドキしながら近づき、「先生、僕のこと覚えている？」と話しかけました。忘れていたらどうしようと不安を感じながら。すると先生は即座に、「覚えているよ、あきらちゃんでしょ」と言います。たったそれだけのことなのに、天にも昇るようなうれしい気持ちになったことを覚えています。2年、3年経っても、自分の名前を覚えてくれている人がいる。不思議な安心感をもった出来事でした。

聖書の中には、神さまが人間に呼びかける場面があります。そういう時、神さまは「そのあなた」ではなく、かならず人の名前を呼びます。その人が大切に思われているからです。しかし、人と人との間では、なかなかそのような訳にはいきません。よほどの偉人でもないかぎり、人々の記憶にずっと残る名前はありません。やがて自分が生きていたという痕跡すらも無くなる時がやってきます。しかし、神さまは特別です。私たちを必要とする時、今も名前を呼んでおられます。そして、神さまは、どんなに時間が経っても、私たちの名前を記憶の中に留めて下さいます。それは、私たちが神さまに愛されているからに他なりません。

新入園のお友だちを迎えて新しいクラスの1年が始まっています。もう、みんなの名前を呼び合える関係になれたでしょうか。それができたら素敵なことだと思っ。

チャブレン 司祭 下澤 昌